

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

（注）8年7月判断は、前回8年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっていることから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、プラスチックが緩やかに持ち直しつつあるものの、食料品が横ばいの状況にあるほか、窯業・土石が弱い動きとなっていることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	持ち直しの動きに一服感がみられる	持ち直しつつある	
設備投資	7年度は前年度を上回る見込み	8年度は前年度を下回る見込み	
企業収益	7年度は減益見込み	8年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を上回っている	前年度並みとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパーは、果物や総菜等の飲食料品が堅調であることから、全体としては堅調となっている。コンビニエンスストアは、飲料やファーストフードに動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、日用品や飲食料品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、エアコンに動きがみられることから、全体としては好調となっている。ホームセンターは、エアコンや資材等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。百貨店は、飲食料品や高額品に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。乗用車の新車登録・届出台数は、軽乗用車は前年を下回っているものの、普通車及び小型車は前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。観光は、国内観光客が増加していることなどから、緩やかに回復している。旅行は、国内旅行は緩やかに持ち直しつつあり、海外旅行は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 果物は、昨年より相場が落ち着く中、販売促進の効果により売上げが増加している。(スーパー)
- 米は、販売単価が落ちているが需要は戻らず、売上げが減少している。一方で、総菜パンが、販売促進の効果により売上げを伸ばしている。(スーパー)
- 気温の高い日が多かったことにより、飲料の売行きがよい。(コンビニエンスストア)
- 価格の上昇や販売促進の効果により、ファーストフードの売上げが好調。(コンビニエンスストア)
- 中東情勢に関する一連の報道により、石油由来の日用品の売上げが増加している。(ドラッグストア)
- 菓子や飲料を中心に価格の安いプライベートブランド商品の売行きがよい。(ドラッグストア)
- エアコンは、2027年の省エネ基準引上げを控え、新基準を満たさない商品のみならず、新基準適合商品への買い換え需要がみられることから、大幅に売上げが増加している。(家電大型専門店)
- エアコンは、2027年の省エネ基準引上げに対する普及価格帯商品への買い換え需要で、売上げが増加している。(ホームセンター)
- 中東情勢の影響により品薄や価格上昇の懸念が高まった資材・部材の売上げが増加している。(ホームセンター)
- 飲食料品は、総菜や菓子の売上げが堅調であるほか、催事の売上げが好調となっている。(百貨店)
- 高級時計は、値上げがあったが需要は堅調であり、売上げが増加している。(百貨店)
- 普通車及び小型車では、自動車税環境性能割廃止に伴い、納車を4月以降へ先送りする動きがみられた。(乗用車)
- GW後半を中心に家族連れなどで賑わい、祝休日の1日あたり客数は前年を上回った。(観光)
- 燃油サーチャージの高騰により、ツアーの申し込みが減少している。(旅行)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

プラスチックは、堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直しつつある。化学は、国内外の堅調な需要を背景に、持ち直しつつある。食料品は、一部に弱さがみられることから、横ばいの状況にある。窯業・土石は、国内向けの需要が低調となっていることから、弱い動きとなっている。

- 包装フィルムについて、中東情勢の影響もあり需要が増加。(プラスチック)
- 工業向け薬品について、大口案件受注により引き続き堅調に推移。(化学)
- 液体万能調味料について、堅調な需要が続いている。(食料品)
- 大型の公共工事の完了に伴い、生産量を調整している。(窯業・土石)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は上昇している。新規求人数は前年を下回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、6月末は全産業で31.8%ポイントと「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は続いている。

- 卸売・小売業を中心に人手不足感が継続しており、企業による大規模な求人募集など積極的な動きがみられる。(労働局)
- 賃上げを行わないと人手が確保できないとの声や、既存従業員の待遇改善のために人件費を上げているとの声が聞かれている。(労働局)
- ハローワークに加え民間求人媒体も活用しているが、費用に見合うほどの応募はない。(卸売)
- 多くの求人サイトを利用し、募集を行っているが、不足分を充足するに至っていない。(食料品)

■ 設備投資 「8年度は前年度を下回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 製造業及び非製造業で前年度を下回る見込みとなっており、全体としても前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「8年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっており、全体としては増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、分譲は前年を上回っているものの、持家及び貸家は前年を下回っていることから、全体としては前年を下回っている。

- 原材料価格の高騰による住宅価格の上昇から、住宅購入マインドは低下傾向にある。(建設)
- 注文住宅に比べ、安価な分譲住宅の人気の高まっている。(建設)

■ 公共事業 「前年度並みとなっている」

- 前払金保証請負金額でみると、国及び独立行政法人等は前年度を下回っているものの、県及び市町村は前年度を上回っていることから、全体としては前年度並みとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
徳島県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
愛媛県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
高知県	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。